

自発的な学びを育む
連想的情報アクセス技術
— 検索から連想へ —

高野明彦 (NII 連想情報学研究開発センター)

「連想の場」としてのコンテンツ利用環境

・情報に文脈(コンテクスト)を与える場

- 発信元の異なる情報源を動的に関連づける
出版物、新聞、写真、美術館・博物館、Web、...
 - 不確かな情報を高信頼な情報に関連づける
報道情報の裏を取る、自分に理解できる情報源
- ⇒情報空間に奥行きと安心感を与える

・情報に自分だけの文脈を発見する場

- 人の記憶は言葉のネットワーク(文脈)
 - 記憶が紡ぎだす言葉の文脈は常に個性的
- ⇒「連想」は指紋のようなもの

連想する情報サービスの構築

▪ 専門知識を要求しない情報サービス

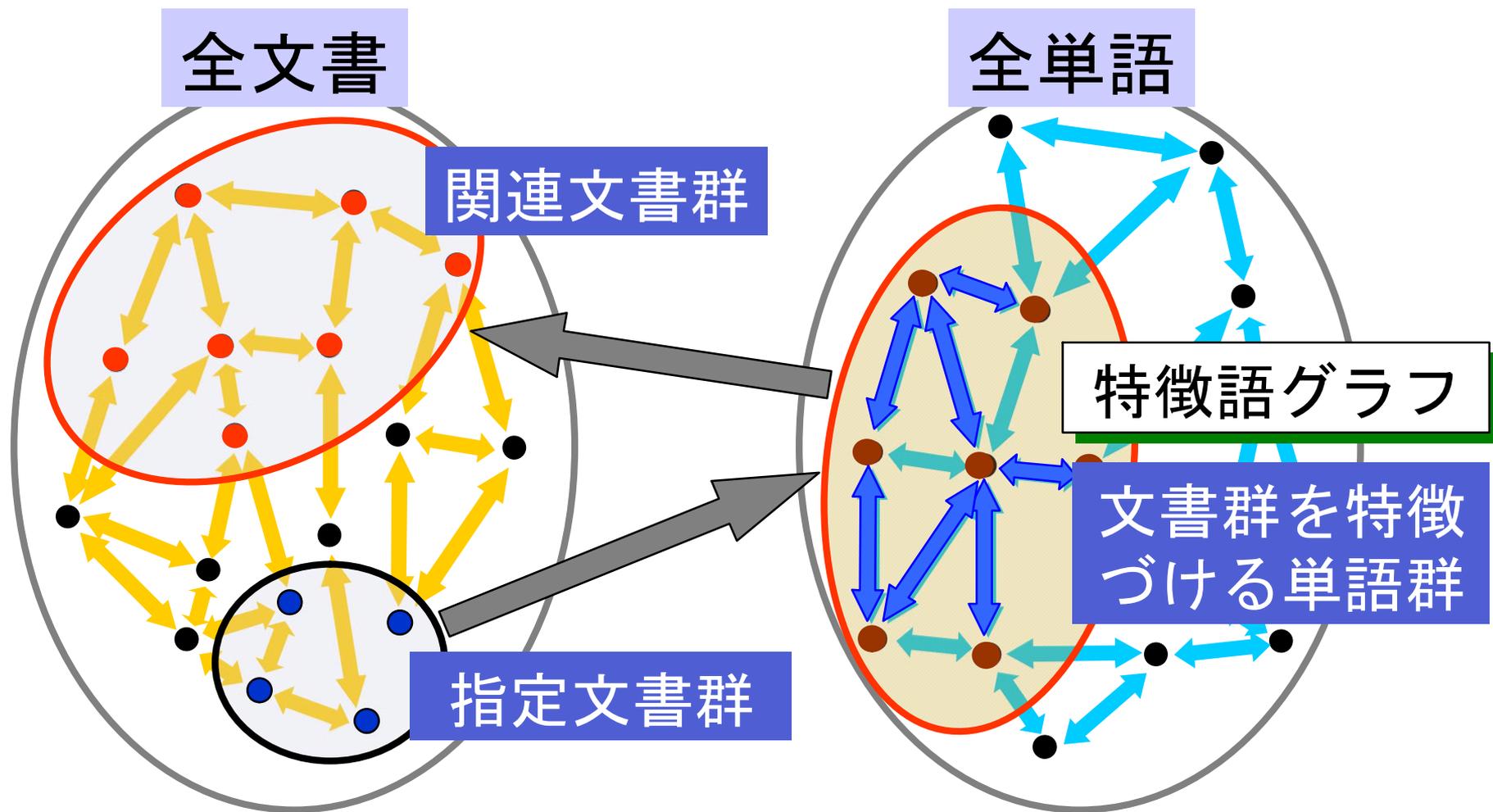
- 自然文・キーワードでの連想検索
- 検索結果を要約する関連語(トピックワード)
- 検索結果から正解を選んで再検索
(関連性フィードバック)

⇒情報空間に奥行きと安心感を与える対話技法

▪ 関連情報サービスとの動的連携機能

- 自然文や要約語群による連想検索で実現
- 関連情報の有無や内容を関連語により判定

異なる情報源をつなぐ連想検索



「連想の情報学」

– DualNAVI 1996.12～

- 文書連想検索・特徴語グラフ・双対空間メタファー

– GETA(汎用連想計算エンジン) 2002.7～

- 連想計算の高速実装・連想計量の動的変更
- コンテンツの相互運用化コンパイラ
- 連想計算Webサービスを発信

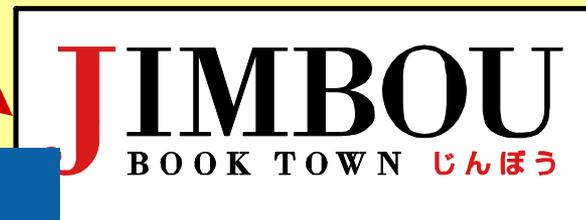
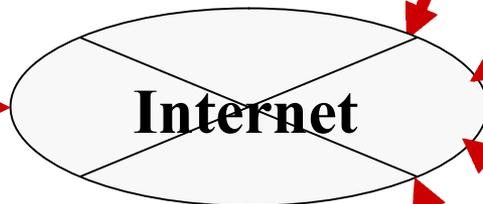
– 「想・IMAGINE」2006.6～

- 分散管理されたコンテンツ群の統合利用環境
- 分割コンパイルされたコンテンツの動的リンカー
- 連想計算Webサービス同士の“相互作用”

大規模異種情報の収集・結合技術

DB群を仮想DB化

複数の情報源を
連想的・動的に結合



想 IMAGINE

想いを連ね、想いを映し、その響きに耳を澄まそう